

3. 養豚業の臭気対策の課題点

豚舎構造によって、豚舎の清掃にかかる労力が大きく変わる。

土間豚舎(すのこ無し)



一部すのこの豚舎



全面すのこの豚舎



すのこの下でふん尿を
掻き出すスクレーパー



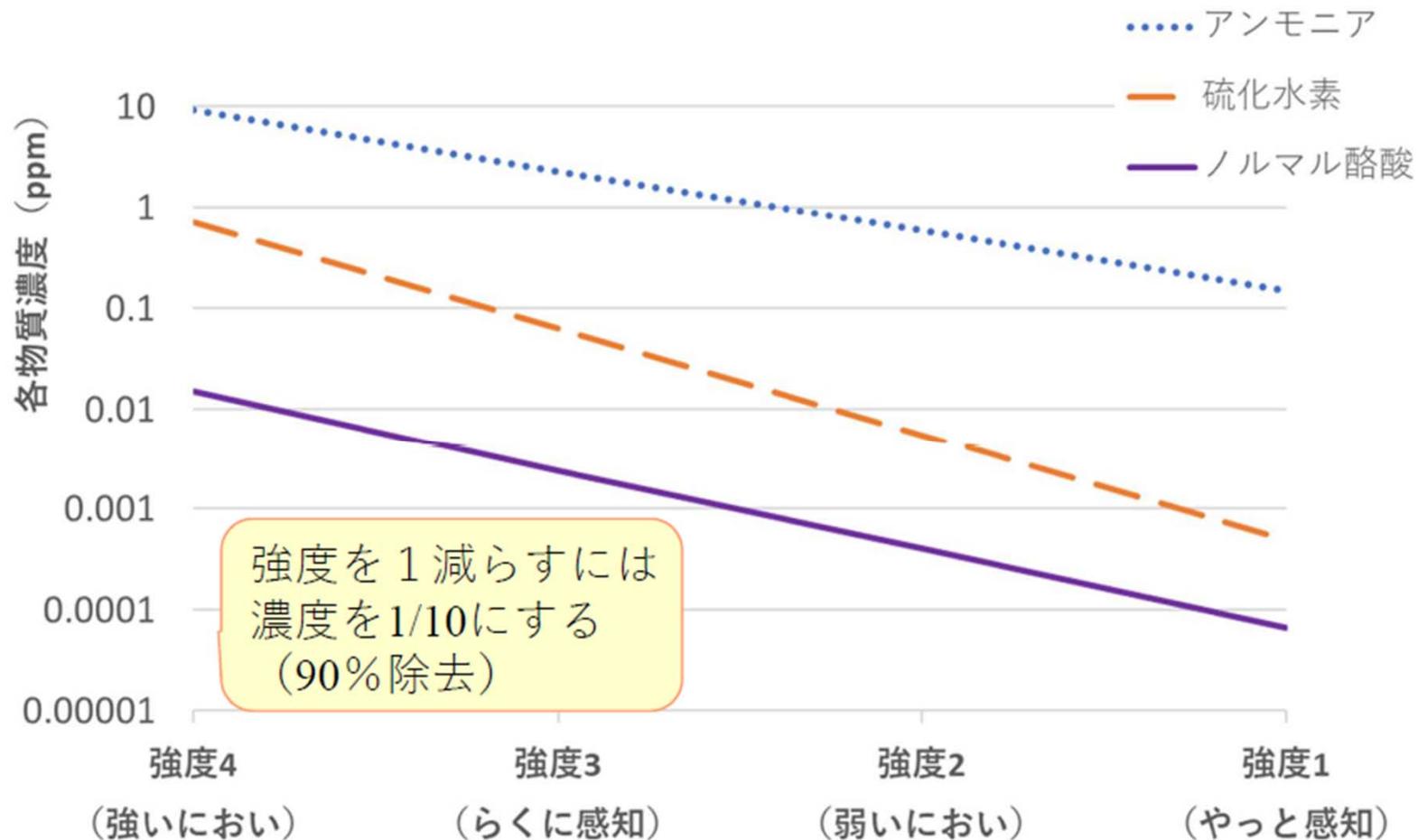
フラッシング豚舎

① 豚の習性を活かした排泄溝



4. 脱臭対策の現状

脱臭効果を実感するには、10%の改善では足りない。脱臭効果を実感できるよう臭気強度で1減らすためには、濃度を1/10に減らす(90%除去)が必要

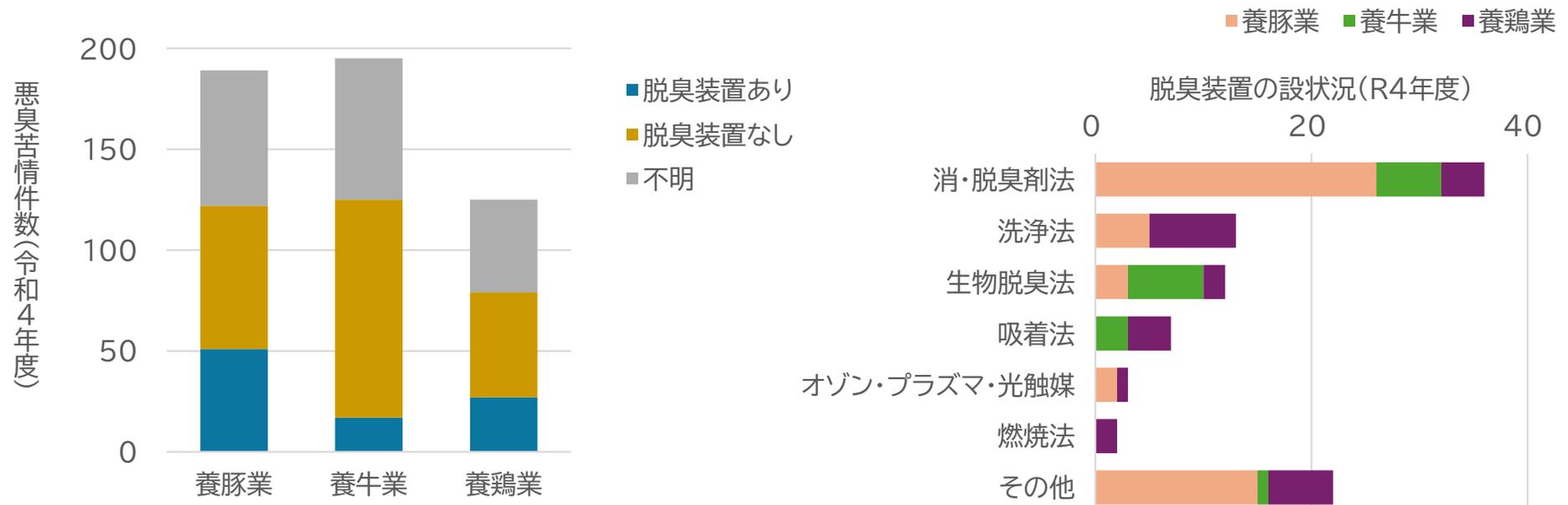


4. 脱臭対策の現状

臭気対策は脱臭装置の設置だけではないが、悪臭問題が発生している農家において、脱臭装置の導入状況をみると、養豚業（189件中27%）、養牛業（195件中9%）、養鶏業（125件中22%）に留まっている。その中で消・脱臭剤の噴霧が最も多くの農家に採用されている。

悪臭苦情があった農家においては、養豚業の27%、養鶏業の22%では脱臭装置が設置されている。一方養牛業では9%に留まっている。これは畜舎構造の違いや、敷地の広さ、圃場の有無などが影響していると考えられる。

畜種別に、どのような脱臭装置を導入しているかをみると、養豚業では消・脱臭剤を噴霧していることが多く、養牛業では生物脱臭法、養鶏業では洗浄法が最も多く設置されていた。



4. 脱臭対策の現状

具体的な改善対策は、各農家の臭気発生源(畜舎又は堆肥舎)の特定や立地環境、施設構造などの条件に応じて、検討する必要がある。

臭気発生源

臭気対策の実行例

畜舎内



- 清掃をこまめに行う(敷料の量を増やす、交換頻度を上げる)。
- ウィンドレス畜舎の換気口の改善、脱臭装置の設置など構造上の臭気対策にも取り組む。
- においを数値化して、試行錯誤しながら改善対策を実行

堆肥舎



- 好気性発酵ができているか確認(発酵温度やにおい、色等)。
- 好気性発酵を促進するため発酵条件(水分調整、発酵温度、通気量等)を再検討する。
- 発酵初期を攪拌する作業時は、朝夕を避けたり、密閉化する。